

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	0173700261		
法人名	有限会社 サービス企画		
事業所名	グループホーム なかよしの家		
所在地	虻田郡洞爺湖町栄町51-1 (電話) 0142-76-3271		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	平成21年4月15日

【情報提供票より】 (平成21年3月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 31日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 8,5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	1~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 5,000円(4-9月) 10,000円(10-3月)
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月12日 現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 87,6 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖ヶ丘サテライトクリニック 譲仁会 友愛会歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「なかよしの家」は、JR洞爺駅や役場、消防署から徒歩数分の距離にある3階建ての1ユニットのグループホームである。1階が共用スペースと管理者の住居、2階が居室、3階は2名が入居している高齢者住宅と行事などを行う多目的スペース、屋上という構造となっている。管理者は年1回職員と個別に面談する時間を設け、相談し易い環境や安定して働くことができる職場づくりをしている。利用者は、馴染みの管理者や職員から日常生活の支援を受け、高齢者住宅の入居者と共に穏やかな日々を共有している。居間には、一人ひとりの専用の椅子が並んでおり、明るい陽射しを浴びながらゆっくりと食後の時間を過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスとしての理念は、職員と検討し新たな理念を作成している。職員を育てる取り組みは、外部研修を受けた職員が口頭で報告をしている。同業者との交流を通じた向上は、グループホーム広域連絡会の当番幹事となりネットワークづくりや勉強会を行っている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員会議を開催し、全員の参加で自己評価項目について話し合い、計画作成担当者が文章化している。理解が難しい項目もあり相互の意見を交換することで解決することもあり、職員間のコミュニケーションの重要性を認識する機会となったと捉えている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成19年3月と平成20年10月に開催している。年1回のペースで事業所の多目的スペースを会場にして役場職員、地域包括支援センター職員、老人クラブ会長、家族、事業所の管理者と計画作成担当者が参加している。事業所からは利用者の現状、役場からは洞爺湖町の実情などが報告されている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月「なかよし便り」を発行し、写真を入れて全体的な様子と個人の身体の様子、日頃の様子、連絡事項、職員の交代などを記載し、出納帳の写しと領収書を添えて送付している。家族が町内に居住している場合は、訪問して届けている。家族の来訪時に意見、不満、苦情を引き出すことができるよう、話し合いを心がけている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、管理者が事業所を代表して年に3回行われている清掃に参加している。自治会主催の盆踊りの出店や近くの公園から聞こえてくる太鼓の響きを楽しんでいる。事業所主催のバーベキューやクリスマス会は、家族に案内状を出し、地元の人々には電話で知らせている。さくらんぼ狩りやぶどう狩りなどの外出行事では、車いすを使っている利用者の見守りをするボランティアの協力を得ている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価での話し合いを基に、昨年の4月に職員会議で検討し、「ようこそ心・明るく元気な心・他に共感する心・この心を育みなかよしの家の絆を深めます」という理念をつくりあげている。「他に共感する心」という文言に地域密着型の理念を盛り込んでいる。	○	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」（平成18年厚生労働省令改正）という地域密着型サービスとしての役割を目指した文言を理念に表現することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、1階玄関ホールと台所、2階の宿直室に掲示している。月1回定期の職員会議などで、日々のケアを話し合い理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、管理者が事業所を代表して年に3回行われている清掃に参加している。自治会主催の盆踊りの出店や近くの公園から聞こえてくる太鼓の響きを楽しんでいる。事業所主催のバーベキューやクリスマス会は、家族に案内状を出し、地元の人々には電話で知らせている。苺狩りやぶどう狩りなどの外出行事では、車いすを使っている利用者の見守りをするボランティアの協力を得ている。	○	小学校の総合学習（ふれあい隊）や幼稚園との交流を再開させていきたいという意向なので、その実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	夜間に職員会議を開催し、全員の参加で会食をしながら自己評価項目について話し合い、計画作成担当者が文章化している。理解が難しい項目もあり相互の意見を交換することで解決することもあり、職員間のコミュニケーションの重要性を認識する機会となったと捉えている。外部評価は家族に送付し、事業内に掲示している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年3月と平成20年10月に開催している。年1回のペースで事業所の多目的スペースを会場にして役場職員、地域包括支援センター職員、老人クラブ会長、家族、事業所の管理者と計画作成担当者が参加している。事業所からは利用者の現状、役場からは洞爺湖町の実情などが報告されている。	○	開催回数を増やしていくことや議題に外部評価、災害対策を取り上げることが期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場が事業所から徒歩数分の距離にあり、運営推進会議の参加を依頼するために訪問することもある。地域包括支援センターには、グループホーム広域連絡会の当番幹事として議題の選択や地域の一人暮らしの高齢者の実情などについて相談をしている。	○	市町村との連携を模索しているということなので、事業所主催の行事に招待するなどの方法で連携をもつことができるよう期待したい。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「なかよし便り」を発行し、写真を入れて全体的な様子と個人の身体の様子、日頃の様子、連絡事項、職員の交代などを報告している。殆どの利用者が事業所で提供している金銭管理サービスを利用しており、出納帳の写しと領収書を毎月、送付している。家族が町内に居住している場合は、訪問して届けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に意見、不満、苦情を引き出すことができるよう、話し合いを心がけているが苦情はないので受付簿は作成していない。管理者は、常に家族の立場に立って職員を指導している。玄関に意見箱を設置し家族の意見は申し送りノートや口頭で共有している。	○	家族等の意見を運営に反映できるよう、家族の意見受付簿を作成することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1事業所1ユニットであるので異動はなく、ここ2年間は職員の離職もないので馴染みの関係によるサービスが提供されている。管理者は年1回の個人面談を通して職員の思いを聴き、働き易い職場づくりに努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画は、作成していないが勤務年数に応じて研修を受けることができるようにしている。協会病院、室蘭市の歯科医師会主催の研修に参加し、口腔ケアについての学習や消防署の協力を得て随時、誤嚥予防などの内部研修を実施している。	○	外部研修の報告書を作成することで職員間で研修内容を共有することができるよう、期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム広域連絡会の年4回開催される勉強会では、座席を工夫し、他のグループホームの職員と交流する機会を持つことができるようにしている。室蘭グループホーム連絡会の事例研究に参加し同業者との交流を図っている。	○	グループホーム広域連絡会を活かして相互訪問等の活動ができるよう、期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用に際しては、家族が見学し、家族や本人からその人の人生を聞かせてもらうようにしている。入居後は、グループホームでの生活が安心できるものとなるよう、失敗があっても全て受け入れるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩として利用者から生活の知恵を学んでいる。また、戦争や昔にしていた仕事の話聞いて涙することもある。トランプやオセロなどの遊びや壁飾りを作るなどの日常生活の様々な場面で喜びを共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、仕草や言葉から利用者の思いを読み取ったり、職員の方から簡単な選択が出来るような問いかけをして意向を汲み取るようにしている。入浴時や夜勤時に個別に対応する事で思いを聞く事が出来る時もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時の介護計画は、医療関係者や家族からの情報、本人の意向を聞き暫定的な介護計画を作成している。作成した介護計画は、職員で確認後、家族の来訪時に説明したり、郵送して確認印を貰っている。利用開始時の暫定的な介護計画は、1ヶ月で見直しを行っている。	○	介護計画書に、説明した日付と家族、本人の署名欄を設けるように期待したい。また介護計画作成時に、家族の意向を更に反映することができるよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議で、利用者日々の様子を話し合い、訪問看護ステーションの看護師からの情報も加え、定期的に3ヶ月毎に見直しを行っている。退院後の体調変化や病状の変化などにより随時介護計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、入院を回避して事業所で点滴の対応を行った事もある。利用者の買い物や通院介助は殆ど事業所で支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向でかかりつけ医の継続受診は可能であるが、現在は2名のみがかかりつけ医を継続している。受診送迎は事業所で行い、家族には体調の変化があった時に電話で連絡をし、症状に変化がない時は、毎月のホーム便りで体調の報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と延命治療について口頭で話をしている。現在2名は、延命治療をしなくても良いと言う意思を確認しているが、書面での確認はしていない。看取りの実績もあるが、重度化や終末期に関しての文書による確認は行われていない。	○	重度化や終末期に関して事業所としての方針を文書に作成し、家族や本人に説明を行い署名を貰うように期待したい。
si					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言葉を拒否したり、命令口調にならないように会議で話し合いお互いに注意している。排泄の失敗などにより汚れた衣服は、傷つく利用者もいるので、本人に気づかれないように処理するように配慮している。個人記録は事務所で保管し、記録する場所も決めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの中を歩いたり、居間でテレビを見たり、居眠りをしたり、利用者同士で会話を楽しむなど、それぞれ、思い思いの時間を過ごしている。洗濯物を畳む手伝いを行っている利用者もいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みを把握して職員が作成している。嗜好に応じて他の物を提供するなどの配慮をしている。箸は自分で準備して貰ったり、利用者に応じて野菜の皮むきや下膳、茶碗拭きなどを手伝って貰っている。職員も同じテーブルを囲み、会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、月、火、金、土の週4日の午後を入浴日として、一人週2回以上入浴できるように支援している。シャワー入浴は、必要に応じて常時対応している。浴槽の広さを調節して以前より小型化し、入浴を安全に楽しむ事ができるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホタテの殻を剥く、茶碗を拭くなど利用者の状況に応じて手伝って貰っている。新聞を読んだりテレビを見て楽しんでいる利用者もいるが、職員は、その日の利用者の状況により戸外に誘うなど遊ぶという視点での気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、天気が良ければ毎日玄関で外気浴を行い、週1回程、近くを散歩している。一人で外出できる利用者に対しては、職員で見守りを行っている。冬季は、通院や役場への事務手続きなどに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠し、チャイムをつけて利用者の安全面に配慮している。殆どの利用者が、外出介助を必要としているため、一人で外出する事はないが、職員が常に見守りを行い、利用者を把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回消火訓練、通報訓練などの避難訓練を行っている。昨年は日中、夜間を想定した訓練を行っている。地域との連絡網を作成し、災害時には協力体制が可能になっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士に年2回見て貰い、栄養バランスなどの助言を得ている。食事摂取量は全員記録し、水分摂取量は、不足しがちな利用者のみ記録している。水分は1日1500ccを目標に摂取できるようにしている。	○	水分摂取量を記録している利用者の1日分の合計を記録すると共に、可能な限り利用者全員の水分摂取量記録するよう期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、一人ひとりの専用椅子が準備されていて、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。大きな窓からは柔らかな日差しが入り、戸外の様子や季節の移り変わりを身近に感じることができる。居間には水仙など季節の装飾をする事で、意識的に季節感を取り入れるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドや椅子、テレビ、冷蔵庫など好みの物や馴染みの物が持ち込まれている。家族やペットの写真なども飾られ、それぞれの利用者が安心して居心地よく過ごせるように工夫している。居室には、ナースコールも設置され、安心して過ごせるように配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。